

2023年9月29日

第103回総合計画審議会

本に載らない

草の根

民間だから
出来ること

交流人口・関係人口増への取組

岩泉町 早野 崇



今日お話しすること

①岩泉ならではの事情

②“岩手”の大学生は“岩手県沿岸部”を知らない

③「予算の切れ目が縁の切れ目」であって
はならない

④こちらから“大学生の日常”に飛び込む

⑤リアルビジネスは学びの宝庫

岩泉ならではの事情

- 震災以降、龍泉洞入洞者数の繁閑差がさらに大きくなった

2015年の例	5月4日	6,185人	→	5月21日	91人
	8月14日	4,715人	→	8月31日	430人
	9月17日	272人	→	9月21日	4,718人

GWやお盆など最繁忙期は
学生アルバイトに頼りたい



少子化で地元高校生も集まらない



やむを得ず盛岡の大学生
(岩大、県立大) に声をかけた



ホームステイ & アルバイト

- ・多い日には7名くらい自宅に泊めて3食用意して、日中は一緒に働き、夜は街歩きを楽しむ...

交流を通じて“今の大学生”を知る



“岩手で学ぶ”大学生の実態

県内出身者は大半が
内陸生まれ、内陸育ち

沿岸に関わる授業は
ほぼ無い（特に文系）

県外出身者は“沿岸”に
行ったことすらない

車所有者が少なく
沿岸は気軽に行けない

課題先進地の“岩手県沿岸部”を学ぶどころか、
関心を持つことも無く、そのまま卒業していく

いくつか、意欲的な取り組みはあったが...

1 「被災地学修」

大学COC事業の一環で、岩手の大学に入学した新1年生全員が沿岸の市町村を訪ね、地元企業などから復興の取り組みについて聞くもの



岩手大学 IWATE UNIVERSITY

地(知)の拠点
文部科学省 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)

Google 提供

お問い合わせ

HOME COC/COC+事業とは 岩手大学の取り組み お知らせ 活動報告 リンク情報 メディア掲載 過去の記事

サイトメニュー

- COC/COC+事業とは
- 岩手大学の取り組み
- お知らせ
- 活動報告
- リンク情報
- メディア掲載
- 過去の記事

HOME > 震災復興に関する学修（被災地学修）の受け入れへご協力お願いいたします

震災復興に関する学修（被災地学修）の目的

震災復興に関する学修（被災地学修）の目的は、「地域を知る」「いわてを知る」ことです。

岩手の歴史・文化・特色を理解するために、地域に出かけていき、その地域の現状、課題について学修をします。いわてを知るうえで、東日本大震災は、避けては通れない現実です。岩手大学の入学生には、被災地の今を知り、現場の生の声に耳を傾けることを通じて、岩手の復興のために、「自分には今、何ができるのか、また将来何をすべきなのか」、そしてそのためには大学で「何を学び、何を体験すればいいのか」を改めて深く考えてもらいたい、それを大学での学びの糧としてほしいと願っています。

震災復興に関する学修（被災地学修）の受け入れへご協力お願いいたします

いくつか、意欲的な取り組みはあったが...

2 岩泉型インターンシップ（2016年～）

岩手で学ぶ14名程度の大学生が約1週間
岩泉町に滞在しつつ、町内の事業所で就
業体験をするもの



ところが、
受け入れ側から見て非常に良い仕組みでも、
ある日突然

「事業期間が終わったから」

「災害のため予算が削減されたから」

といった理由で予告なく終わる**OR**規模が縮小してしまう。

そして、学生との縁が切れるだけでなく大学の事務方との縁
も切れてしまう

予算の切れ目が縁の切れ目であってはならない！

それなら、こちらから大学生の日常に飛び込んでいこう

1 岩手県立大学近藤ゼミ生とイベント開催（2019年）



東京浅草で
「秋のほおずき市」



2 岩手県立大学×岩手県立農業大学校による商品開発+販売（2020年）

早野商店が
全体をサポート

岩手県立農業大学校2年
村上一江さん（岩泉町出身→盛岡農業高校卒）
卒業研究でフルーツほおずき栽培にチャレンジ中

PanoPano
（白石食品工業）
村上さんが育てたフルーツ
ほおずきを使って商品開発、製造

岩手県立大学
三好ゼミ、近藤ゼミ
商品コンセプト立案
販売計画策定、販売、
アンケート調査

岩手県立大学

11月25日から30日まで期間限定出店

盛岡駅 タベナクル
盛岡駅ビルフェザンが運営する1
～2週間の期間限定ショップ

盛岡ターミナルビル（株）
駅ビルフェザン、ホテルメトロポリタン盛岡の
運営会社

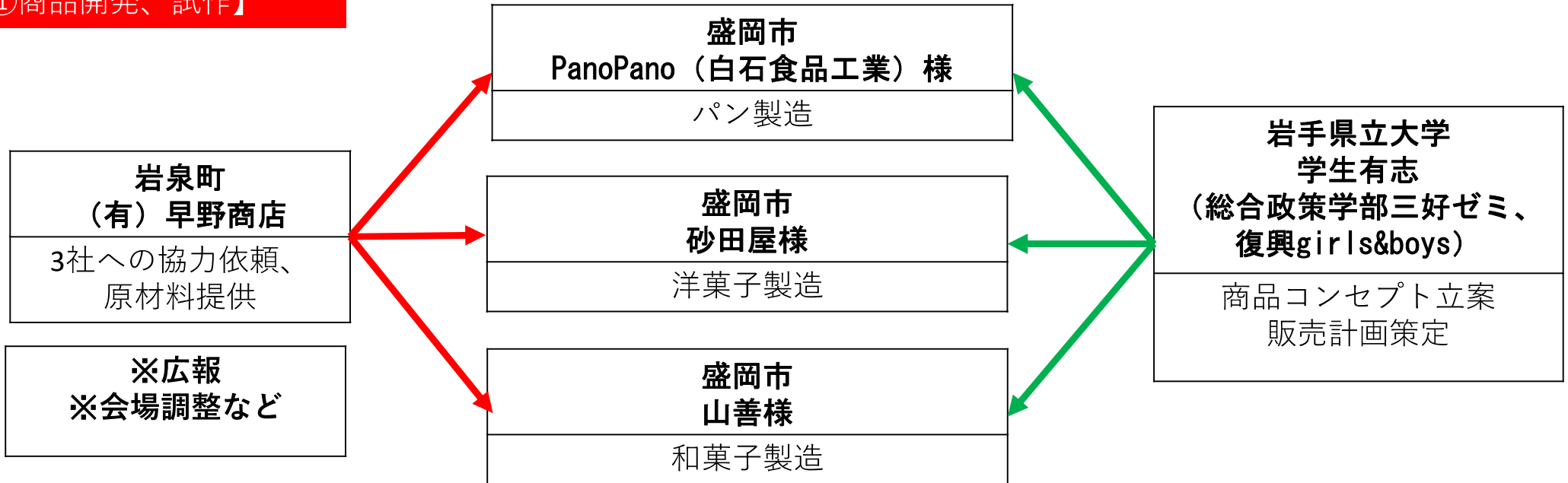
2020年7月
包括的連携協定締結

IGR盛岡駅改札前にあるため、県大生もちろん、盛岡農業高校の生徒も必ず通る場所にある



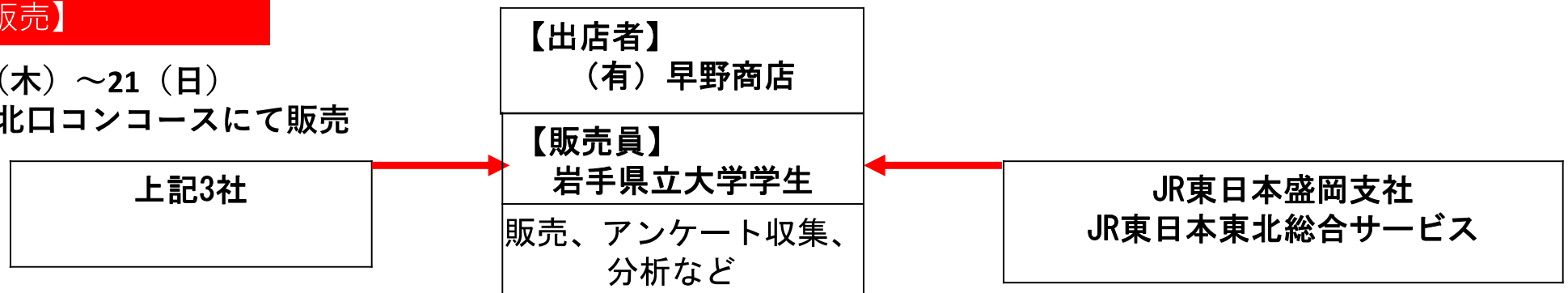
3 岩手県立大学×県内企業3社の協力による商品開発+販売（2021年）

【①商品開発、試作】



【②商品販売】

11月18日（木）～21（日）
盛岡駅2階北口コンコースにて販売



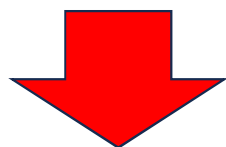


リアルビジネスは学びの宝庫

- ①いわゆる「交流人口」「関係人口」専門に携わる人はリアルな現場を知らないことが多い（頭の中で考えた『交流』になっていないか？）
- ②市町村、業界を超えた“関係者”が増えることによって、真の意味での「創発（クリエーション）」「新結合（イノベーション）」に結びついていく（岩手に一番足りない部分）
- ③「多様性こそが力」を知ることが出来るまたとないチャンス（束になってかかれば岩手は強いはず）
- ④ちょっとしたきっかけを与えると、大学生の能力は飛躍的に伸びる（学外の大人にも十分役割はある）

(最後に) 民間経営者としての思い

- ①自分もUターン者であることから「(若い頃に)してもらって良かったことをしてあげたい」
- ②予算などに縛られず「やりたいからやる」「やりたいようにやる」形で学生達に接したい
- ③地域を飛び越え、同じ意思を持った民間経営者同士が連携することで「普通に暮らしては見えてこない岩手」を見せてあげたい



「交流人口」であれ「関係人口」であれ、一人でも多く岩手の本気に触れるようになると、ちょっと違った「ミライの岩手」が見えてくるのでは...